

13 專攻科目

(養豚・養鶏專攻)

125	豚・鶏飼養管理	(1年)
126	豚・鶏機械施設	(1年)
127	豚・鶏機械施設利用演習	(1年)
128	豚・鶏先端技術演習	(2年)
129	家畜衛生学	(2年)
130	環境保全演習	(2年)
131	豚肉・鶏卵肉流通加工	(2年)
132	豚肉・鶏卵肉流通加工演習	(2年)
133	專攻実習	(1年)
134	專攻実習	(2年)

整理番号： 125

科目名： 豚・鶏飼養管理

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	畜産課程	専攻名	養豚・養鶏専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的及び内容	豚と鶏の飼養管理に関する基礎的な事項を学習する。
授業の方法	
到達目標	豚と鶏の飼養管理に関する基礎的な事項を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	養豚場実用ハンドブック コマーシャル鶏飼養管理ガイド ジュリアライト	伊藤正吾 —	チクサン出版社 (株)ゲン・コーポレーション			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率で50%、理解度で50%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	繁殖豚の飼養管理について	2
2	子豚の飼養管理について	2
3	肥育豚の飼養管理について	2
4	育雛技術について	3
5	産卵鶏の飼養管理について	3
6	豚・鶏の基礎的な繁殖生理と栄養について	2
7	飼養管理のチェック項目について	1
8		
9		
合計		15

整理番号： 126

科目名： 豚・鶏機械施設

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	畜産課程	専攻名	養豚・養鶏専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的 及び内容	養豚と養鶏に関する機械施設の構造・機能を学習する。
授業の方法	
到達目標	養豚と養鶏の畜舎の構造と飼養管理に関する設備の取り扱いについて理解する。

区 分	書 名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	企業養豚ハンドブック 養鶏ハンドブック	山下哲生	チクサン出版社 養賢堂			
参考文献						
その他教材						
成績評価の 方法・基準	出席率で50%、理解度で50%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内 容	時間
1	豚舎の構造について	2
2	養豚の飼養管理に関する機械について	3
3	鶏舎の構造について	3
4	養鶏の飼養管理に関する機械について	2
5	自動給餌機の仕組みと取り扱いについて	2
6	除ふん装置の仕組みと取り扱いについて	2
7	機械の保守点検について	1
8		
9		
合計		15

整理番号： 127

科目名： 豚・鶏機械施設利用演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	1年	課程名	畜産課程	専攻名	養豚・養鶏専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的及び内容	養豚と養鶏に関する飼養管理に必要な施設・機械の利用方法及び保守点検方法を習得する。
授業の方法	
到達目標	養豚と養鶏の施設・機械の基本的な取り扱いができる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率で50%、技術習熟度で50%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	豚舎の構造について	4
2	養豚の飼養管理に関する機械について	4
3	鶏舎の構造について	4
4	養鶏の飼養管理に関する機械について	4
5	自動給餌機の仕組みと取り扱いについて	4
6	除ふん装置の仕組みと取り扱いについて	4
7	機械の故障対策と保守点検法について	6
8		
9		
合計		30

整理番号： 128

科目名： 豚・鶏先端技術演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	畜産課程	専攻名	養豚・養鶏専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的 及び内容	養豚と養鶏に利用されている先端技術について習得する。
授業の方法	
到達目標	養豚と養鶏に利用されている先端技術を習得する。

区 分	書 名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	家畜人工授精講習会テキスト		(社) 日本人工授精師協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の 方法・基準	出席率で50%、理解度で50%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内 容	時間
1	豚の人工授精について（精液採取と精液の保存方法）	4
2	豚の人工授精について（発情確認と精液の注入方法）	4
3	ホルモン剤等を利用した繁殖管理技術について	4
4	鶏の高付加価値卵（飼料米・飼料添加剤の利用等）の生産技術について	4
5	鶏の人工授精、ふ卵技術について	2
6	鶏の産卵調整技術（誘導換羽）について	4
7	大規模養豚経営の先端技術について（視察）	4
8	先進的養鶏経営の先端技術について（視察）	4
9		
合計		30

整理番号： 129

科目名： 家畜衛生学

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	畜産課程		専攻名	養豚・養鶏専攻	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
土屋 明彦	有	元農業大学校教員

授業の目的及び内容	家畜（牛・豚・鶏）の病気と予防、衛生飼育管理を理解する。また、飼養衛生管理基準、農場HACCP、フードチェーンを学ぶ。
授業の方法	①オリジナルテキストを使用。②授業内容を記述させて、毎回レポートとして提出させる。（出席点として試験時に加点）
到達目標	家畜伝染病、飼養衛生管理基準、フードチェーンを説明できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献	動物衛生学 アニマルウェルフェア	獣医衛生学教育研修協議会 佐藤衆介	文永堂出版 東京大学出版			
その他教材						
成績評価の方法・基準	定期試験86点、出席点14点（講義後のレポート提出、内容不適は加点しない）					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	家畜衛生学概論（動物の生体衛生と免疫機能）	2
2	家畜伝染性疾患の防疫（国内防疫体制と国際防疫）	2
3	家畜衛生基準と農場HACCP	2
4	フードチェーンと安心安全な畜産物	2
5	家畜の飼養環境（畜産物の生産現場の衛生・環境条件）	2
6	鳥インフルエンザ・口蹄疫・豚熱	2
7	動物福祉（アニマルウェルフェア・動物のストレス）	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 130

科目名： 環境保全演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	畜産課程	専攻名	養豚・養鶏専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的及び内容	養豚・養鶏経営の健全な発展に必要な環境保全技術を習得する。
授業の方法	
到達目標	

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率で50%、技術習熟度で50%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	養豚・養鶏における排泄物処理について	10
2	豚糞・鶏糞の堆肥化技術について	10
3	臭気対策について	5
4	衛生害虫の防除について	5
5		
6		
7		
8		
9		
合計		30

整理番号： 131

科目名： 豚肉・鶏卵肉流通加工

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	畜産課程		専攻名	養豚・養鶏専攻	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的 及び内容	豚肉・鶏卵肉の流通及び品質並びに処理・加工の知識を学習する。
授業の方法	
到達目標	

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献	卵－その科学と加工技術		光琳			
その他教材	豚枝肉取引規格の概要		日本食肉格付協会			
成績評価の 方法・基準	出席率で50%、理解度で50%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	豚肉の流通と価格形成について	2
2	鶏卵肉の流通と価格形成について	2
3	豚肉の規格と品質について	2
4	鶏卵肉の規格と品質について	2
5	豚肉の加工処理について	2
6	鶏卵肉の加工処理について	2
7	加工品の販売と食品衛生について	3
8		
9		
合計		15

整理番号： 132

科目名： 豚肉・鶏卵肉流通加工演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	実習
対象学年	2年	課程名	畜産課程	専攻名	養豚・養鶏専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年
柴田 良一	有	元愛知県職員

授業の目的及び内容	豚肉・鶏卵肉の加工実習を行い、加工技術を習得する。
授業の方法	
到達目標	

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率で50%、技術習熟度で50%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	豚肉の部位と名称について	4
2	豚肉の加工について（ソーセージ）	4
3	豚肉の加工について（ハム）	4
4	鶏卵の構造と特性について	4
5	鶏卵の加工について（くん製卵）	2
6	鶏の解体処理について	6
7	畜産物の加工について（アイスクリーム）	2
8	加工品の販売と食品衛生について	4
9		
合計		30

整理番号： 133 科目名： 専攻実習（1年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	10	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	畜産課程		専攻名	養豚・養鶏専攻	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的及び内容	豚と鶏の基本的な飼養管理技術を習得する。
授業の方法	
到達目標	

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献	日本飼養標準（豚・鶏）		中央畜産会			
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率で40%、実習態度で30%、技術習熟度で30%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
2	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
3	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
4	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
5	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
6	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
7	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
8	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
9	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
10	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	40
11	子豚の基本的な飼養管理技術、豚の繁殖技術を習得する。 成鶏の飼養管理技術及び経営管理を習得する。	50
合計		450

整理番号： 134

科目名： 専攻実習（2年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	12	指導形態	実習
対象学年	2年	課程名	畜産課程	専攻名	養豚・養鶏専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
鳥居 雅樹	有	農業大学校19年、農業総合試験場4年、畜産総合センター2年
中務 桂佑	有	農林水産事務所7年、畜産課4年

授業の目的及び内容	養豚・養鶏に関する実践的な飼養管理技術を習得するとともに、高度な専門知識を高める。
授業の方法	①豚及び鶏の飼養管理を通して、必要な技術を習得する。 ②講義によって豚及び鶏の飼養管理に関する理論を学ぶ。 ③プロジェクト学習を通して、問題解決手法と論文作成技術を学ぶ。
到達目標	豚及び鶏の飼養管理に必要な技術と知識を習得するとともに、自ら問題を発見し、解決できるようにする。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献	日本飼養標準（豚・鶏）		中央畜産会			
その他教材	豚病学		近代出版			
成績評価の方法・基準	出席率で40%、実習態度で30%、技術習熟度で30%					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
2	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
3	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
4	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
5	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
6	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
7	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
8	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
9	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
10	養豚・養鶏の実践的な飼養管理及び経営管理を習得するとともに、プロジェクト学習及び校外学習により専門知識を高める。	54
合計		540